

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年3月
学校法人 東京内野学園
東京ゆりかご幼稚園

1. 本園の教育目標

- (1) 集団の中で自他を尊重し、大ぜいの人となかよく楽しく生活できる社会性を育てる。
- (2) ことにあたり、意欲的に行動できるこどもを育成する。
- (3) 基本的な生活習慣態度をしっかりと身につける。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領を踏まえ、「主体的、対話的で深い学び」の実践を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	コロナ禍における環境の充実を図る	B	園庭遊具を中心にさらなる充実を図り、コロナ禍においても可能な限り多様な遊びや活動を確保し、主体的で対話的、且つ創造的な遊びが広がる環境構成に努めることができた。
2	「幼保小の架け橋プログラム」を踏まえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点から子どもの成長や課題を深く理解できるよう努める。	A	「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」委員長の無藤隆先生（白梅学園大学名誉教授）と田澤里喜先生（玉川大学教授）による研修会を通して、「幼保小の架け橋プログラム」への理解を深めた。また、日常保育の振り返りやドキュメンテーションを通して「10の姿」の視点から子どもの遊びや生活、活動を通じた成長や課題を深く理解できるようになった。
3	満3歳児の発達段階を踏まえたねらいを再構築する。	A	満3歳児クラスの開設に伴い、4年保育の視点から子どもの発達段階を踏まえたねらいを再構築することができた。
4	当園の自然豊かな環境を活かし、専門家、行政、地域、テレビ局等からの協力を得ながら、園児の興味関心を深め、主体的な学びへと繋げていく。	A	ムササビをはじめとする野生動物が園庭に棲息するという当園ならではの恵まれた環境を活かし、「自然体験プログラム」として3名の専門家に指導いただいた。また、八王子市、町田市、NHK等の協力を得ながら、森にムササビの巣箱や観察用カメラを設置し、園児の興味関心をより深め、主体的な学びへと繋げていくことができた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	4つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、「主体的、対話的で深い学び」を伴う質の高い教育を実践することができた。また、実践を進める上での課題も明確になった。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	室内環境の充実	主体性や選択性を伴う室内環境の充実に取り組む。
2	低年齢向け環境の充実	満3歳児に加え、2歳児の保育や1歳児親子クラスが開設されるに伴い、低年齢の遊具をはじめとした環境の充実を図る。
3	幼小の接続	幼小接続の重要性を踏まえ、連携小学校と「架け橋プログラム」を推進する。

6. 学校関係者評価委員会の評価（大学准教授、保護者、地域の方などで構成）

子ども達は、東京ゆりかご幼稚園にしかない魅力的な遊具に挑戦したり、豊かな自然とふれ合ったりすることで、心身共に健やかに育つことができていると感じます。また、「主体的、対話的で深い学び」の実践を通して幼稚園生活が充実すると共に、小学校に向けての基礎が作られていると感じます。引き続き、東京ゆりかご幼稚園の環境を活かした質の高い幼児教育を行っていただければと思います。

令和4年度 教育水準向上事業評価報告書

令和5年3月
学校法人 東京内野学園
東京ゆりかご幼稚園

1. 事業の趣旨・目的

当園の自然豊かな環境を活かし、専門機材の活用、専門家による指導を通して、園児の動植物への興味や関心を深め、探求的学びへと繋げていく。

2. 実施内容の報告

	回数	実施内容
1	通年	<p>園児が制作し園庭に設置した巣箱に棲息するムササビが、どのように生活しているのかを観察するため、IPカメラを巣箱内に4台設置した。観察小屋にはモニターを設置し、園児がいつでも巣箱内のムササビの様子を観察できるようにした。実際に、巣箱を出入りする様子、寝ている様子、出産や子育ての様子、天敵に襲われかける様子など、野生動物ならではのありのままの生活を知ることができた。また、巣箱から出て戻ってくる時間を観察日誌に記録し、日没時刻によって時間が異なることを発見したり、天敵に襲われないよう巣箱周囲の草取りをしたりと、自分たちができることを主体的に考え、話し合い、行動に移そうとする姿勢が伺えた。</p> <p>このように、カメラの設置によってムササビの生活の様子を具体的に知ることができ、愛着や興味関心を深め、主体的、対話的で深い学びに繋がると共に、持続可能な社会の創り手としての行動が芽生えたことは大変意義深く、有効であった。</p>
2	年4回	<p>「自然体験プログラム」として、園庭や周囲の森に棲息する動植物への興味関心を深めるため、森林教育、生き物全般、ムササビの各分野から3名の専門家に指導いただいた。</p> <p>①独立行政法人森林総合研究所の大石康彦博士には、森の生態系についてお話しいただき、隣接の森を園児と一緒に歩き、ドングリを拾い、園庭にドングリ畑を作って播種した。一連の活動によって、身近な森が持続可能であるために自分たちに何ができるのかを考えることができた。</p> <p>②プロナチュラリストの佐々木洋先生には、身近な生き物の特徴や生活の様子を教えていただき、生き物の持つ神秘さを感じたり、愛着や興味関心を深めることができた。特に自然の中での虫探しと、室内での画像を使ったクイズ形式のレクチャーは、子どもの興味をさらに深めるのに有効であった。</p> <p>③ムササビ研究家の岡崎弘幸博士には、園児が強い興味を示しているムササビの生態について詳しく教えていただき、また園児が普段抱えている多くの疑問に答えていただいた。前項1のカメラによる観察効果と相まって、ムササビに対する興味関心をさらに深め、探求的な学びを促すことができた。</p>

3. 学校関係者評価委員会の評価

幼稚園の豊かな自然環境の中で様々な動植物を知り、親しみ、興味を持つことができるような数々の取り組みを積極的にされていることはとても素晴らしいと思います。特に、野生動物の観察や、専門家の話を聞く機会などは、家庭ではなかなか経験できないことで、東京ゆりかご幼稚園ならではの取り組みだと思えます。これからも、子ども達が自然とふれ合いながら、好奇心をより深めていくことができるよう、こうした取り組みを継続していただければと思います。